

本研究会の発足には、会員以外の方々からも、絶えず激励とご支援をいただきました。これらの方々には引続き本研究会の発展のためにお力添えたまわるよう重ねてお願いする次第です。また、本研究会の設立に深いご理解とご支援をたまわつ

た岡山大学長、大藤 真先生と、重井医学研究所長、妹尾左知丸先生より祝辞をいただき、「岡山実験動物研究会報、第1号」の巻頭を飾ることができました。ここに、厚くお礼申しあげるとともに、引続きご鞭撻をお願いする次第です。

第1回 岡山実験動物研究会経過報告

岡山実験動物研究会の構想は昭和57年6月、岡山大学農学部畜産学科家畜育種学教室と同歯学部口腔解剖第1講座との合同セミナーが歯学部内でおこなわれた際に発案された。

同年11月、同研究会発足の呼びかけ人として、猪貴義教授（岡山大・農）、永井廣教授（岡山大・歯）、倉林譲助教授（岡山大・医）が趣意書を回覧し、第1回の岡山実験動物研究会が発足することになった。

会合は昭和57年12月7日（火）午後3時より、岡山市の郵便貯金会館2階会議室において行なわれ、26名の参加者を得た。

会合にかかわる事務処理は上記家畜育種学教室と口腔解剖第1講座が担当した。

まず、呼びかけ人・猪貴義教授によって「岡山実験動物研究会開催に至る経緯」が説明され、呼びかけ人・永井廣教授より猪教授の会長推薦がおこなわれ、満場一致で承認された。ひきつづき、猪会長より参加者の各部門より1名づつの世話人が委嘱され、参加者の同意を得た。

猪会長より世話人を理事と呼称するよう提案があり、会則等については後日理事会にはかることになった。

ひきつづき「岡山実験動物研究会の今後のあり方」が山下貢司教授の座長により討論された。

常務理事 永井 廣

今回は講師として永井廣教授が「実験動物における発生のひずみの技法別研究法」と題して講演し、質疑をおこなった。

役員は次の通りである。

会 長	猪 貴義（岡山大・農・教授）
常務理事	永井 廣（岡山大・歯・教授）
“	倉林 譲（岡山大・医・助教授）
理 事	鳥海 徹（岡山大・農・教授）
“	小林 靖夫（岡山大・理・教授）
“	田坂 賢二（岡山大・薬・教授）
“	山下 貢司（川崎医大・教授）
“	高橋 正侑（ノートルダム清心女子大・教授）
“	栗本 雅司（林原生物化学研究所・所長）
“	沖垣 達（重井医学研究所・副所長）

さらに午後6時より同会館内において懇親会が催され、和気藹々のうちに第1回岡山実験動物研究会を終了した。

次回は岡山大学農学部内において土川清先生（国立遺伝学研究所、静岡実験動物研究会会長）を迎えて特別講演がおこなわれる予定である。